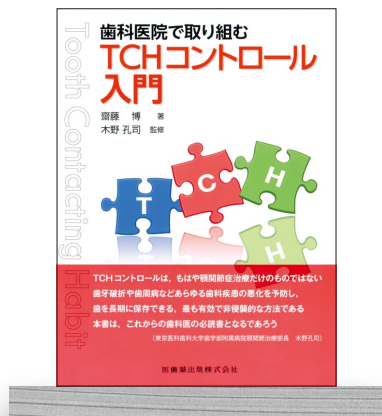


これからの歯科衛生士必読書！



歯科医院で取り組む TCH コントロール入門

齋藤 博 著/木野孔司 監修

A4判変/72頁 定価：5,000円+税
医歯薬出版（2014年9月）

古畑歯科医院

評・波多野映子（歯科衛生士）



まず、この本の中表紙をめくると、序文で著者である齋藤 博先生と監修者の木野孔司先生との間柄が語られています。お二人が東京医科歯科大学歯学部同級生であることや、卒業後に齋藤先生は開業され、木野先生は大学院に進み「顎関節の解剖学」を研究されていたこと、そしてその後、齋藤先生が「TCH (Tooth Contacting Habit: 上下歯列接触癖) コントロールへの取り組み」の重要性を感じたきっかけから現在に至るまでの歳月が1ページにまとめられており、この熱いプロローグに頷きながら引き込まれるように本編へ進むことができます。

次のページからは、本編の導入として「こんな患者さん、来ませんか？」と読者に問いかけるタイトルで、TCHがかかわる4症例が写真とともに紹介されています。ここで「なるほど」「そう言われてみると心当たりがある」「あの患者さんはTCHかもしれない」など、いろいろな感想をもちながら目次へと導かれるのです

が、読み手がもつTCHの疑問に対する答えの掲載ページが一目でわかるようになっています。

本書には「TCH コントロールを日常的に取り入れるメリット」「TCH リスク別対応法」「メンテナンス時のTCH コントロール」などの6つの魅力的な章題と、さらに興味をそそる節題がつけられています。全編にわたって理解を助ける図表や症例写真、イラストが組み込まれており、そのわかりやすい内容には誰もが圧倒されることでしょう。特に、「患者さんにTCHをわかりやすく説明するには?」「心理状態のスクリーニング」「歯科衛生士が行うメンテナンス時のTCH リスク診査」の項目では、TCHについて時間をかけて説明してもなかなか理解を示していただけないケースや、信頼関係がまだ確立されていない状態でTCH コントロールを取り入れるケースなど、臨床におけるさまざまな場面で参考になる例が提示されています。患者さんとのコミュニケーションにおいて、臨床経験年数を問わずすべての歯科衛生士必見です。

当院でも早い時期からTCHの指導に取り組んでいましたが、新しいスタッフも増え、院内勉強会であらためて取り上げる必要性を強く感じていたときに、本書に出会いました。それまでも、メンテナンス時に患者さんの「噛みしめ」や「食いしばり」に気づくことはあったのですが、「TCH リスク別メンテナンス」の章を読んで、自分がどの患者さんにもTCHに関して一律な説明や指導を行ってしまっていたことに気づき、反省しています。私は、夢中になって読み進めているうちに、あっという間に最後のページまでたどり着きましたが、さらにまた何度も見直して……と、繰り返し読み込んでいます。すべての歯科衛生士に、丸ごと覚えていただきたいくらいお勧めの1冊です。